

ひまわり

11 2019
NOV

もくじ

- 2 情勢 ~「このままでは大変なことになる!」~
- 3 きょうされん全国大会inあいち参加報告
- 4・5 ハートフェスタ2019ご来場ありがとうございました!!
- 6 ちょっと聞いてよ! 第23回・時・ご寄付

ちょっと一息 (かめおか作業所)

社会福祉法人 亀岡福祉会

○法人本部：〒621-0033 京都府亀岡市蔭田野町佐伯大門30-1

TEL:0771-24-2596 FAX:0771-24-2597

HP <http://www.kamecomyu.net/>

西村 直

TADASHI NISHIMURA

社会福祉法人亀岡福祉会
理事長

「このままでは大変なことになる！」

きょうされんが2021年度報酬改定に対する緊急要望をよびかけ

厚生労働省は、昨年度「報酬改定検討チーム」をスタートさせ、いままでもあまり取り組まなかった「報酬改定の影響など実態調査」を行い本格的な改定作業に入ったようです。2025年介護保険法の抜本改正に照準を合わせた障害福祉分野の段階的な改定とされています。2021年度の定時改正に向けての検討内容が明らかになるにつれ、事業所関係者の中から大きな不安が広まっています。

いてもたってもいられない

きょうされんは今年9月、会員の法人、事業所はもとより、全国社会就労センター協議会や全日本ろうあ連盟、全国精神保健福祉会連合会など、全国の障害関係の事業所団体に2021年度報酬改定に対しての緊急要望書の提出を呼びかけました。

要望内容は8項目、どの内容も現在検討されている改定内容が実施されると事業運営がいつそう厳しい事態に追い込まれ、ひいては利用者の安定した生活や就労の継続が難しい事態につながりかねない中身で「いてもたってもいられない」呼びかけのようです。

「特徴的な改定内容を見ておきます。自力通所が困難な障害のある人の援助のための「送迎加算」や十分な栄養の摂取やバランスのある食事の提供への利用者負担を軽減していた「食事提供体制加算」などの廃止が打ち出されています。グループホームに居宅介護ヘルパー(身体介護、入浴介護)が入ることの見直しがされています。福祉職員の処遇改善として今年10月から実施された処遇改善加算は職種によっては対象から外される、給与の格差が前提となるなど大きな矛盾を抱えています。就労継続A型、B型の報酬単価は数字のみで単価が決まる著しい「成果主義実績主義」が持ち込まれ福祉的支援の根幹にかかわる矛盾と混乱が生じています。

満足できない、

不安な報酬改定

京都では現在、京都社会就労センター協議会、京都知的障害者福祉施設協会、きょうされん京都支部が合同でこれら報酬改定の影響も含めた事業所実態調査を実施しています。(10月29日現在で約140カ所の事業所からの回答、

集約中)。その中では全体利用者の1/3が60才以上である高齢化の急速な進行の実態、その中で支援の多様性への不安、2018年度報酬改定には70%近くが満足できない、不安と回答しています。

この要望書提出のとりくみに亀岡福祉会内では、法人理事長、各事業所長、保護者会長名はもとより、メンバー自治会などにも呼びかけています。また、京都社会就労センター協議会会員にも賛同が広がっています。

理念を盾にすることなく

今回の緊急要望署名は、単に2021年度改定の是正を求めるだけではなく「全ての障害者は、他の者との平等を基礎として、その心身がそのままの状態で尊重される権利を有する」と謳った障害者権利条約(第十七条)の理念を閉ざすことなく将来にわたって広げていく当面の重要アクションとしてとらえ、さらに広めていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

きょうされん第42回全国大会inあいち (10/25~26)に参加してきました!!

一日目、土砂降りの雨の中、職員7人、メンバー7人、保護者7人、職員7人の総勢21名で名古屋に出発しました。まずはオープニングセレモニー。朗読劇「木を植えた人たち」です。スクリーンにたくさんさんの写真が映し出され、共同作業所はじまりの地である名古屋のゆたか福祉会の成り立ちが、朗読で分かりやすく紹介されました。合唱では市民も合わせた500名の大合唱団が、色とりどりのTシャツを着て歌われました。大会テーマソング「高く飛ばそう」は、とても覚えやすいメロディーで、初めて聞くメンバーも振り付きで楽しく歌いました!

公開シンポジウム「共同作業所始まりの地から 明日への一歩」では、共同作業所で



培われたバイオニア精神が息づいている名古屋で、きょうされんの立ち上げに関わった人たちが集まり、それぞれに当手を振り返ってきょうされんの意義などを確認し合いました。

二日目の分科会で、私は以前から興味があった「優生思想と障害者問題」に参加しました。優生保護法の裁判の原告当事者や弁護士などの意見は、生の声として心に迫るものがありました。自分の中にも身勝手な優生思想があることに気付かされ「それでも向き合って、学んでいこう」と前向きになれました。大会二日間を通して楽しく学習と交流をさせていただき、全国大会がとても好きになりました。若手の職員さんには是非参加してもらいたいと思いました。

(文責:阿部 洋子)



亀岡福祉会メンバーの感想

抹茶とお菓子食べて、おいしかった～。

レンタカー(マイクロバス)が良かった!

動物園、さるがおった!
プラネタリウム、暗くてこわかった。

みんなとステージでいっぱいおどった。
大学生(ボランティア)とハイタッチした!

メンバーご家族の感想

愛知で半世紀前に日本初の共同作業所が設立され、その後全国に作業所が広がっていき、全国組織としてつながり、42年前に愛知できょうされんが結成されたことを、愛知の地で見て聞くことが出来、胸が熱くなりました。その大変な動きがあったからこそ、41年前にかめおか作業所がスタートしたんだと感謝の気持ちになりました。この気持ちを持って、40周年記念事業に参加出来る事は、とてもありがたい事だと思いました。

初めて参加して思ったことは、一人ひとりが一生懸命生きている、頑張っている発信力に、すごく驚かされたこと。一人ひとりでは微力でも皆で声を大にして発信すれば形になるんだなということに、とても感銘を受けました。また、機会があれば参加したいです。

オープニングセレモニーでは、共同作業所づくりから現在に至るまで。そして未来への希望などが、合唱構成曲として披露されました。その力強い大合唱に圧倒されました。

分科会では「暮らし・居住」に参加し、親亡きあとの仲間の暮らしを支えるホーム職員の話があり、これからのことを考える良い機会になりました。

全国から3000人の方々が集うこの大会に参加させてもらえたこと、ありがたく思いました。参加させてもらうたびに元気とやる気ももらって「また明日からがんばろう」と思えます。子供のために、亀岡福祉会保護者会のために、また頑張っていこうと思っています。